

仕合わせの和

第236号
令和3年11. 1
(毎月1日発行)

ご降誕八〇〇年

ご入滅七四〇年(その2)

住職 谷川寛俊

日蓮大聖人のご生涯をたどる時、いくつかの節目に分けて理解することが出来ます。まず真実の仏教を探求なされた修学期(求道者としての時期)と教えを宣言された建長五年四月二十八日の立教開宗以降(弘教者としての時期)とに分けて考えることが出来るのです。宗教的な迫害を受けることを法難と言います。大聖人は数々の法難を体験されています。一番目は鎌倉で辻説法を行っていた時に、時の幕府の怒りをかい、松葉ヶ谷のご草庵の焼き討ちに(三十九歳)、二番目は、伊豆伊東の流罪(四十歳)当時多くの信仰を集めていた浄土教を批判しての罪。三番目は小松原法難(四十三歳)、念仏信者であった東条景信に襲撃され、眉間に刃の傷を負う。

四番目は、龍ノ口での斬首(五十歳)。そこでも当時の幕府は大聖人の命を奪うことが出来なかった為、佐渡ヶ島へ配流されました。

日蓮宗では平成十九年(令和三年までの十五年間)、「立正安国・お題目結縁運動」を展開してきました。「つまり敬いの心で安穏な社会づくり、人づくり」という目標を立てて、運動してきました。去る九月三十日には、総本山身延山久遠寺でコロナ禍の為、残念ながら一般檀信徒の参列は無しにして、ほんの一部の全国の寺院方参列の上、しめやかに厳修されました。

「いのちに合掌」をスローガンとする「立正安国・お題目結縁運動」は、その行動の根幹を支える指針として、「四恩報謝」という言葉があります。

日蓮大聖人は「開目抄」というご文書に「仏法を学せん人、知恩報恩なかるべしや。仏弟子は必ず四恩を知って知恩報恩を報ずべし」とご自身の教えの根本に四恩報謝を示されました。

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

四恩とは第一に、生きとし生けるもの全てと自己とのつながりの大切さを説く「一切衆生の恩」。第二に、この世に生を受け、直接の養育を受けた「父母の恩」。大聖人は、法華経の行者として、父母の恩を報じる為のご生涯でもありました。第三に、自身が生きている国や国土の恵みを大切に思う「国の恩」です。人はともすれば人間関係の煩わしさから親子の絆を忘れ、周囲の人々との触れ合いを拒絶しようとする傾向にあります。しかし大聖人は「恩を知り、恩に報いよ」と御教示くださいました。「恩を知る」とは、まさに「出会いを大切に作る」という事です。

この世に生を受けてから、親子に始まる様々な人との出会いを通じて、私たちは生かされてきました。都合が悪いかからと、その関係を断ち切って、人生を乗り越えていくことは出来ません。むしろ厳しい出会いこそ己の人生を充

実させてくれる恩であると、大聖人は感得されました。

敵と思われる人を大切な味方としていく法華経の真髄は、「四恩報謝」によって叶えられていくと信じます。

今年、大聖人様が日本国安房の国小湊の地にご降誕されて八百年。

大難四ヶ度、小難数知れずの六十二年のご生涯。ただひとえに「南無妙法蓮華経」のお題目を一切衆生の「身」と「口」と「意」(こころ)に入れ、あるいは留め置かんとする、大慈大悲の気持ちで、私達を仏と成らしめる道へと導かれました。

そして弘安五年(1, 282)十月十三日辰の刻(今の午前八時頃)武蔵野の国(東京)、池上宗仲公邸でご入滅されました。そのご遺徳を偲んで報恩感謝の祈りを捧げるのが、「お会式(えしき)」なのです。

お会式桜

